

24:1 週の初めの日の明け方早く、女たちは、準備しておいた香料を持って墓に着いた。
 24:2 見ると、石が墓からわきまにころがしてあった。
 24:3 はいって見ると、主イエスのからだはなかった。
 24:4 そのため女たちが途方にくれていると、見よ、まばゆいばかりの衣を着たふたりの人が、女たちの近くにきた。
 24:5 恐ろしくなって、地面に顔を伏せていると、その人たちはこう言った。「あなたがたは、なぜ生きている方を死人の中で捜すのですか。
 24:6 ここにはおられません。よみがえられたのです。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出さない。
 24:7 人の子は必ず罪人らの手に引き渡され、十字架につけられ、三日目によみがえらなければならない、と言われたでしょう。」
 24:8 女たちはイエスのみことばを思い出した。
 24:9 そして、墓から戻って、十一弟子とそのほかの人たち全部に、一部始終を報告した。
 24:10 この女たちは、マグダラのマリヤとヨハンナとヤコブの母マリヤとであった。彼女たちといっしょにいたほかの女たちも、このことを使徒たちに話した。
 24:11 ところが使徒たちにはこの話はたわごとと思われたので、彼らは女たちを信用しなかった。
 24:12 [しかしペテロは、立ち上がると走って墓へ行き、かがんでのぞき込んだところ、亜麻布だけがあった。それで、この出来事に驚いて家に帰った。]

弟子たちでさえ復活を信じることができませんでした。人は死の前には希望を持つこともできないほど無力なのです。しかし主イエスは人類の初穂としてよみがえりました。

復活は事実であるから力があります。弟子たちの内面の希望という程度であるなら、誰もその希望を持つことができないからです。信じることができなくても、事実を見ることはできます。それは歴史的に記録が残されている事実です。それが復活の信仰なのです。

そしてその事実の上に、私たちの希望は成り立っています。私たちの身代わりに死んでよみがえったということは、私たちが同じようになるということだからです。

永遠のいのちの希望を持ち続けましょう。それが人に伝わるような生き方をしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

